

hgu_LAB. MAGAZINE

Aug 2024

vol.

018



LEADER

OF THE CHEER SQUAD

Yuichi Kobayashi



HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

借りた金は忘れるな。 貸した金は忘れる。

田中角栄

Yuichi
Kobayashi

小林 侑市

北海学園大学 法学部 1 部
法律学科 4 年
市立札幌新川高等学校出身

札幌市生まれ。中学生のとき、学校での朝読書のために購入したのが石原慎太郎著の『天才』。田中角栄を描いたその一冊で、政治家という職業に興味を持つように。好きな政治家は田中角栄と浜田幸一。周囲をひきつける人間的魅力と歯に衣着せぬ発言、地元の未来のために全力で汗を流したところが共通する二人だ。田中角栄の名言「借りた金は忘れるな。貸した金は忘れる」の「金」は、「恩」と解釈。人からの恩は忘れず、自身は恩着せがましくなく。そうあり続けられる余裕を持つことを、忙しい毎日の中でも大事にしている。

勝ち、選手の努力の成果。 負けは、僕らの力不足だと思っています。

部活動やサークル活動の主役は、多くの場合、それに取り組む選手です。
厳しい練習で高めてきた力を出し切る姿に、人々はたくさんの声援を送ります。
さて、今回の主役は、選手に「声援を送る側」です。
対外試合や大学行事などで、北海学園大学の多くの学生を
全力で応援し続けてきた、全学応援団指導部の小林団長。
エールに込めてきた熱い思い、今日はたくさん話してください。

団員約8,000名、指導部1名

——全学応援団指導部には長い歴史があり、小林くんは、なんと第70代団長だとか。
全学応援団指導部（以下、指導部）は大学創立後まもない1954年に誕生した、伝統を持つ部なんです。部活やサークルの応援に加え、学校行事や他大学との交流時にも活動するなど、対外的な場に出る機会も多いです。でも、長い歴史の中で何度か危機もありました。直近の危機がコロナ禍。活動ができないうちに部員がいなくなってしまう、僕が入部するまでの数年は休部状態でした。

——小林くんの入部のきっかけは？
アルバイト先で指導部OBに出会ったことです。「大学も非常に困っている。やってくれないか」と頼まれて、その場で引き受けました。何をするのかもよく知らなかったんですけどね。

——それなのに即答した理由は？
「人のためになることと、ちょっとでも面白そうと思ったことはやる」というのがモットーなんです。

——小林くんの他には、団員はいなかった？
実は、北海学園大学に入学した人は全員、自動的に応援団員になるんですよ。自治会則にも書いてあります。だから団員は約8,000人もいる（笑）。僕が入部した指導部は、その団員の応援をまとめる組織。指導部は当時、僕1人だけでした。

——応援時には太鼓や旗揚げなども行いますよね。それにはどのように対応を？
手伝ってくれる人をスカウトしました。ゼミの同期に「太鼓叩くだけだから!」と声をかけ、次に応援団団室の向かいにあるバーベルクラブに行って「ちょっとさ、旗持ってくれない?」と頼み……太鼓も練習が必須だし、旗は竿も含めて40kgほどあって持つだけでも重労働なんですけど、二人とも気持ちよく引き受けてくれて、今も続けてくれています。

応援席の中間管理職

——体育会系を中心にいろいろな部活を応援していますが、スポーツには元々、興味がありましたか？

それが、全然。でも、適切な応援のタイミングをつかむために各部の部員にルールを聞いたり、自分で調べたりしていくうちに「こんなスポーツあるんだ、面白いな」と興味が広がっていきました。何にも熱中したことがない人ほど、指導部に入るといいかもしれない。自然と知識がつく中で、面白いと思えるスポーツが見つかるかもしれませんよ。

——応援時に、一番意識していることは？
応援の世界では「勝ちが選手の力。負けは応援の責任」と言われます。主役はあくまでも選手。そこに変なプレッシャーをかけたり、無理やり頑張らせるようなことはしたくないというのが僕の思い。「頑張りたい!」と思っている人がもっと頑張れるような応援を目指しています。

——では、選手や試合の状況を見て曲を変えたりと、応援内容を変更することもある？
頻繁にあります。各部の部員から「あの選手の気持ちを盛り上げたいからこの曲を演奏してほしい」と頼まれることもありますし。それを一緒に応援に臨むチアリーディング部や吹奏楽団に伝達するなどして、随時、応援内容を調整しています。

My Menter

楽しく苦しく元気よく!

- 小林** 石井先輩は、いわゆるコーチのようなポジションです。石井先輩も学生時代、休止状態の指導部を再興した経験があるんです。
- 石井** 大学職員に知人がいて、「やってみない?」と声をかけられて。一人じゃ活動がままならないから、とにかく友達を引き込みました。「学ラン着て立っているだけでいいから」「旅行に行けるよ」とあの手この手で勧誘しました（笑）
- 小林** 僕もそうでした（笑）
- 石井** 指導部って厳しいイメージがあるけれど、実際は楽しいよね。私の代は卒業時には全員、「もっと早く始めたかった!」と言っていたなあ。
- 小林** わかります。僕も1年生から入ればよかったと、今まさに思っているところです。

——そんな団長経験者のお二人が思う「応援」とは？

- 石井** 応援って難しいんです。たくさん練習を重ねてきた人に、さらに「頑張れ」って言うわけですから。そこで大事なのは、努力も含めて応援を「楽しむ」ことかな。「俺も何千回、何万回と腕振ってきたんだ。声援で勝たせるんだ」ぐらいの気概を持った上で楽しむことで、学内の皆を仲間にして力を送る。私の時代は「楽しく苦しく元気よく」なんて言っていたけどね。
- 小林** すごくいい言葉ですね。「指導部がいる意味ってなんだろう」というのは僕もずっと考え続けていることですが、その場にいる皆とのつながりをつくる、ということが全てかもしれませんね。

——小林くんの団長ぶりはいかがですか？

- 石井** 向上心があるし、チアや吹奏楽団など周囲ともしっかり連携を取っているし、安心して見ていられます。本学の精神である開拓者精神で、これからもやりたいことにどんどん突き進んでほしいです。
- 小林** ありがとうございます。困った時は伝統に立ち返りつつ、僕も楽しく苦しく元気よく、応援団を盛り上げていきます!



Shiro Ishii

石井 詩朗さん
第6代団長
応援団指導部監督補佐





—— 応援席からのリクエストにも応えるんですね。
もちろん！ 僕らに一方的に「こうやって応援して」と押し付けられても、応援席は楽しくないじゃないですか。各部の皆さんも応援プランを練ってきているし、チア部や吹奏楽団にもそれぞれの考えがある。そこにいる全員の思いや要望を一つにまとめあげ、その力で選手たちを後押しするのが僕らの役目です。指導部というぐいぐい引っ張るイメージかもしれませんが、実際は全体のバランス調整をする、中間管理職的な仕事をしているんですよ。

—— チア部や吹奏楽団とは合同での活動も多いですよ。連携にあたり大切にしていることは？
何かあった時に頼み合える、良い関係でいることです。試合前に急にそういう関係になろうとしても難しいじゃないですか。だから、練習後に一緒にご飯に行って雑談するなど、普段から関わる機会を増やして、互いの考えを言い合える空気感をつくってきました。それが、本番での連携の良さに結びついてきていると感じています。

毎試合で友達づくり

—— 初めて出会う人もいる中で、その場を一つの応援団としてまとめていくときのコツはありますか？
友達をつくるような感覚で接することですね。対等な目線で接するようにしています。上から目線は絶対にダメだけれど、下からでもダメ。短い時間の中でもいい関係をつくるように心がけています。

—— 応援に関わった人に、その後、学内で声をかけられたりもしますか？
一緒に応援した人かどうかまではわかりませんが、学生から声をかけられることはあります。「団長、演舞見たよ。頑張って」とか、「団長！写真撮ろう」とか。その時は記念撮影しました（笑）。応援する側の人間が応援されている、という状況は不思議ですが、ありがたいなと思います。

—— 人見知りはしない方？
しませんね。昔は結構いろいろ気にするタイプでし

たが、今は「何事もダメ元。失敗しても諦めないことが成功につながる」と思えるように。僕は政治の世界に関心があり、議員事務所でアルバイトをしているんですが、そこでの経験も大きいです。「いろいろな人がいる、厳しい声も貴重なご意見だ」と思えるようになりました。

—— 応援団と政治、似ているところはありますか？
「チームで動く」ところは似ているかもしれません。昔の政治は強烈な個性を持つ人が周りを引っ張っていましたが、今は多くの人が同じ課題や方向を見つめ、一緒に頭を使って良いアプローチを考えていく時代です。その中で求められるリーダー像は「場の雰囲気をつくる人」に変わってきていると感じます。僕もそういう人間でありたいですね。

昭和と令和、ハイブリッドな教え

—— ちなみに、「応援」も練習があるのですね？どんなことをするのでしょうか。
「型」と呼ばれる応援の動きや、声出しをしています。指導部は世代を超えたつながりが強く、OBの方々が監督や監督補佐として指導をしてくださいます。先輩方の多くは言葉での説明よりも、「私がやるから見て覚えて」というスタイル。そこは昭和的だなと思うんですが、いざ演舞を見せてくれる場面になったら「スマホで録画して、繰り返し見てくれ」と（笑）。半分昭和、半分令和な指導方法でした。動画と、YouTubeに残っている過去映像を参考に、アドバイスもいただいて覚えてきました。

—— 北海学園大学独自の「型」もありますか。
皆さんが応援団と聞いてイメージする前後左右の手の振り。あの「二呼一拍」という動きに、大学名の頭文字の「H」をモチーフにした所作を加えたものが本学の「型」です。それを、北海道の雄大な大地をイメージした大きな動きで行います。動きはダイナミックですが、指先の揃え方など細かい決まりもあります。普段使わない筋肉を使うので、練習後は筋肉痛になります。

—— 練習の成果を初披露したのはいつですか？
3年の春です。円山球場での硬式野球部の試合が僕のデビュー戦でした。正直、練習だけしている時は、動きや声の出し方が本番でどう生きるのか想像がつかず、果てのない道を歩いている感覚でした。それが、スタンドに立ったら一気にいろいろなことが見えて。試合の主役である選手の頑張りを後押しするのが僕らの役割。パワーを送るには応援する皆がまとまる必要があって、そのためにはスタンド全体に声が届かないといけないし、動きもダレてはいけない。そういう、やってきたことの意味がつかめたときに「応援は面白い！」と感ずることができました。

新曲、出ました！

—— 活動の今後について聞かせてください。
応援では試合開始前に学歌、終了後は第一学生歌を歌うのが決まりです。そのほかにもオリジナル曲がいくつかあります。でもそれだけでは応援中の曲数が足りないと感じ、僕の代で曲を増やしました。「ポラリス」「鳳凰」「天翔の刻」「ソーランコネクション」「Fresh Breeze」の5曲です。

—— すでに披露しているのですか？
今年のGWに、円山球場で一部、披露しました。この新曲を引き継いでくれる部員を絶賛、募集中です。指導部は声と気合いさえあれば何年生からでもできます。どんな方でもトライしやすいですよ。遠征などで旅にも行けます。

—— ぜひ部員、増やしたいですね。では団長、最後に、応援の醍醐味とは？
全力で戦う仲間を、全力で応援する。その中で生まれる一体感やつながりですね。それから、本学の場合、応援している控えの選手たちもすごく楽しそうに応援してくれるんです。試合に出ていた選手も「応援に来てくれてありがとう」といってくれます。そういう交流を通して「うちの大学、いい人多いな。いい大学なんだな」って実感できる。それも、応援の醍醐味かもしれません。

My Teacher

私からのエールは「頑張れ」じゃなく「頼むね」

草間 小林くんは政治の世界に関心があるんだよね。それなのに、どうして会社法がテーマの草間ゼミを選んでくれたんだろう？
小林 政治に関してはアルバイトなどで見聞を広めることができていたので、それ以外の分野で視野を広げたいなと思ひまして。僕は草間先生の、間違っひても「そういう考えもあるね」と一度は受け止めて正しい方向に導くという教え方がとても好きだったんです。だから、2年次から2年間、先生の元で学ばせていただきました。
—— 草間先生から見た小林くんはどんな学生ですか？
草間 2年の時から、ゼミの後によく質問をしに来てくれていて「熱心な学生さんだな」と感心してひました。3年次

にはゼミ長を務め、年に数回行う他ゼミとの合同ディベートでも周りを引っ張ってくれました。ディベートでは相手の論理の矛盾や弱さを的確に指摘していくことが重要。その点で、小林くんのディベートは将棋の名人戦のようだった。先読みと緻密な展開づくりが素晴らしかったね。
小林 事前に行った、先生との模擬練習のおかげです。ウイークポイントが見え、対策ができたので落ち着いて臨むことができました。
—— 普段は周囲にエールを送っている小林くんへ、今日は先生からエールをいただけますか。
草間 小林くんが団長になった時、私は学生部長でした。数年間、指導部が活動休止状態で、私をはじめ大学関係者はとてもさみしい思ひをしてひたんです。だから「ゼミ長の小林くんが指導部に入った」と聞いたときは本当にうれしかった。東北学院大学との伝統のエール交換も、入部2カ月で仕上げたとは思えない見事さで目頭が熱くなりました。小林くんは、何事においても目標に対して具体的な方策を持っていて、実行力もある。「頑張って」ではなく「頼むね」と声をかけたくなるんです。ぜひ、信じる道を進み、良い社会をつくってね。

頼むね！
小林 応援されるのってうれしいですね。そのお言葉を力に、想ひに応えられるよう頑張ります。



Hideki Kusama

草間 秀樹
法学部
法律学科
教授

My Favorite Shop



名水ラーメン 中沼本店

現在休業中

札幌市東区中沼西1条1-13-11

011-791-3678

11:30～閉店時間は日による

不定休

醤油ラーメン	850円
塩ラーメン	850円
味噌ラーメン	850円
激辛スタミナラーメン	970円

※2024年6月現在

第三のおばあちゃん、今日も元気です。

大学生って自由な時間が多そうに思われますけど、僕の場合は勉強、指導部の活動、議員事務所でのアルバイトで1週間があつという間に終わっていきます。一人でカフェに行ったり、家族で食事に出かけるのが気分転換ですね。名水ラーメンは、元々は僕のじいちゃんの行きつけで、自然と家族三世代で通うように。店名の通り、京極の名水を使っていてスープがおいしい！塩か醤油のどちらかをその日の気分で選びます。今日は醤油。僕が幼稚園生の頃から変わらない味わいです。お店を一人で切り盛りしているおばあちゃんも、ちょっぴり腰は曲がってきたけど変わらない。行くといつもあたたかく声をかけてくれる、僕の「第三のおばあちゃん」。これからも元気に、ラーメン、作り続けてくださいね。



My Favorite Things



学ラン

今でこそ中高生が着るイメージですが、学ランは本来、大学生の制服です。指導部の活動時の正装は学ランに白手袋、腕章、革靴です。靴以外は一式、部から新品が支給されます。本格的に活動を始めた3年の時にはかなり単位を取り終えていたので、学校に行くのはほぼ指導部に関する活動のため。だから僕は、学ランで大学に通っています。丸洗い可能なので、汗をかいたらすぐ洗濯できて衛生的ですよ。



Ovation Celebrity
Ovation

尾崎豊が愛用していたメーカーのエレアコです。CMで使われていた「15の夜」の「盗んだバイクで～」というとんでもない歌詞に驚いたのが尾崎との出会い。でもちゃんと聴いてみたらすごくいい曲で、ファンになりギターも始めました。尾崎なら、大体弾けます。



名刺入れと名刺

指導部の名刺です。指導部は伝統的に名刺を持つスタイルで、他大学の指導部も名刺を持っていることが多いです。僕は議員事務所でアルバイトをしている兼ね合いで、個人の名刺も持っているので、名刺入れは大体いつもパンパンですね。



こちら葛飾区亀有公園前派出所
秋本治
集英社

201巻全巻はさすがに揃えきれませんが、特装版や好きな巻は持っています。大原部長がブチ切れるパターンか、両さんが借金に追われるパターンが定番オチのギャグ漫画ですが、いい話率も意外と高いんですよ。好きなキャラクターは、主人公の両さんですね。



熊の冠頭

これは応援団旗の竿先につける冠頭です。冠頭は一般的には槍の形だったりするのですが、本学はなんと木彫りの熊さん！かなりレアですね。この冠頭は創部から使い続けられていて、管理は団長の責任。一つしかないの、団室に大事に保管しています。



尾崎豊のCD

尾崎のオリジナルアルバムは6枚しかないんです。もちろん全部持っています。一番好きな曲は「僕が僕であるために」。邦楽だとGLAYやBOØWY、洋楽だとQueenやブルーノ・マーズなども聴きます。今年のQueen札幌公演も行きました。前座がGLAYでラッキーでした！



プレザージュ
SEIKO

両親が大学の入学祝いとして買ってくれました。好きなものを選んでいいよと言われたので、国産の手巻きにしてみました。あまり振動させない方がいいそうで、応援団活動の時はこちらはお休み。水に濡れても大丈夫なG-SHOCKに付け替えて活動しています。



南天のと飴 缶タイプ
常盤薬品

たくさん声を出した後の喉のケア方法は「南天のと飴」です。第3類医薬品で、薬局で買うことができます。選挙カーのアナウンスのアルバイトをしていた時に会った「ウグイス」のお姉さんのお墨付きの一品。のと飴と侮るなかれ、かなり効きますよ！



日本列島改造論
日刊工業新聞社

ずっと読みたいと思っていて、最近古本屋で見つけて買いました。まだ読んでいる途中ですが、今の日本を大胆に予想していて、それが結構当たっていることに驚いています。田中角栄の考えややりたかったことが詰まっている本。読み応え、あります。